

終戦から71年 全国戦没者追悼式 8月15日 12時03分

終戦から71年を迎えた15日、およそ310万人の戦没者を慰霊する政府主催の全国戦没者追悼式が東京の日本武道館で行われました。

式典には全国から遺族の代表などおよそ6000人が参列しました。

天皇皇后両陛下が菊の花



で飾られた式壇に着かれたあと、安倍総理大臣が「皆様の尊い犠牲の上に、私たちが享受する平和と繁栄があることを、片時たりとも忘れません。戦争の惨禍を決して繰り返さない。これからもこの決然たる誓いを貫き、歴史と謙虚に向き合い、世界の平和と繁栄に貢献し、万人が心豊かに暮らせる世の中の実現に全力を尽くしてまいります。明日を生きる世代のために、希望に満ちた国の未来を切り拓いてまいります」と式辞を述べました。

そして、正午の時報とともに参列者全員で1分間の黙とうをささげました。

続いて、天皇陛下が

「さきの大戦において、かけがえのない命を失った数多くの人々とその遺族を思い、深い悲しみを新たにいたします。ここに過去を顧み、深い反省とともに、今後、戦争の惨禍が再び繰り返されないことを切に願い、全国民と共に、戦陣に散り戦禍に倒れた人々に対し、心から追悼の意を表し、世界の平和と我が国の一層の発展を祈ります」

とおことばを述べられました。

このあと、遺族を代表して、フィリピンのルソン島で父親を亡くした、広島県東広島市の小西照枝さん（74）が「戦死の公報が届いたときの祖母、母の落胆した姿、言葉にいい表すことのできない思いでした。再び悲惨な戦争を繰り返すことなく、世界の平和、命の大切さをしっかり後世に繋ぐべく、たゆまぬ努力をしていくことをお誓い申し上げます」と述べました。

式典ではこのあと、参列者が式壇に菊の花を手向けて、戦争で亡くなったおよそ310万人の霊を慰めました。

参列した戦没者の妻は7人に

終戦から71年を迎えて遺族の高齢化は進み、参列した遺族のおよそ77%は71歳以上となり、戦没者の妻もこれまでで最も少なく7人となっています。

最年長の参列者で、東京・多摩市に住む101歳の中野佳寿さんは、フィリピンのレイテ湾で夫の信行さんを亡くしました。追悼式を前にした今月10日に報道陣の取材に応じた中野さんは、「夫は海に出てばかりで寂しい思いをしましたが、とても人格者でした。戦争は絶対やめてほしいです。これから子や孫の時代は大丈夫かと不安な気持ちです。若い方たちに戦争に関心をもってもらい、考えてもらいたいです」と話していました。

18歳未満 124人が参列

また、去年に続き、ことしもすべての都道府県から18歳未満の若い世代合わせて124人が式典に参列しました。

参列者で、最年少と同じ年の、神奈川県大和市に住む5歳の小倉武士さんは、中国で曾祖父の弟にあたる小倉良介さんを亡くしました。小倉さんは「きょうは戦争で亡くなった人のお参りに来ました」と話していました。小倉さんの父親の正士さん(46)は「大叔父が亡くなったのは私の父親が5歳のときでした。当時の父と同じ年齢になった息子にも、かつて戦争があったことを知ってほしいと思い、今回参列させました。息子はまだ戦争のことはわかっていませんが、平和について私たちが考え、次の世代に伝えていくことが大切だと思います」と話していました。

安倍首相 千鳥ヶ淵戦没者墓苑で献花

安倍総理大臣は、全国戦没者追悼式に出席するのに先立って、東京・千鳥ヶ淵の戦没者墓苑を訪れました。

千鳥ヶ淵の戦没者墓苑には、第2次世界大戦で戦死し、名前が分からないため遺族に引き渡すことのできない遺骨が納められています。

安倍総理大臣は午前11時20分ごろ戦没者墓苑を訪れ、花束をささげ、深々と頭を下げ、戦没者の霊を慰めました。

◎戦後70年 「全国戦没者追悼式」 天皇のおことば 2015年8月15日

[終戦の日天皇おことば](#)

天皇陛下 (昭和8年12月23日生・81歳) 美智子妃 (昭和9年10月20日生・80歳)

「月刊丈風」2015年8月号より

本日ここに、天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、全国戦没者追悼式を挙げるにあたり、政府を代表し、慎んで式辞を申し述べます。

あの、苛烈を極めた先の大戦において、祖国を思い、家族を案じつつ、戦場に斃れられた御霊、戦禍に遭われ、あるいは戦後、遥かな異郷に亡くなられた御霊、皆様の尊い犠牲の上に、私たちが享受する平和と繁栄があることを、片時たりとも忘れません。衷心より、哀悼の誠を捧げるとともに、改めて、敬意と感謝の念を申し上げます。

未だ、帰還を果たされていない多くの御遺骨のことも、脳裡から離れることはありません。おひとりでも多くの方々が、ふるさとに戻っていただけるよう、全力を尽くします。

我が国は、戦後一貫して、戦争を憎み、平和を重んじる国として、孜々として歩んでまいりました。世界をよりよい場とするため、惜しみない支援、平和への取り組みを、積み重ねてまいりました。

戦争の惨禍を決して繰り返さない。

これからも、この決然たる誓いを貫き、歴史と謙虚に向き合い、世界の平和と繁栄に貢献し、万人が心豊かに暮らせる世の中の実現に、全力を尽くしてまいります。明日を生きる世代のために、希望に満ちた国の未来を切り拓いてまいります。そのことが、御霊に報いる途であると信じて疑いません。

終わりに、いま一度、戦没者の御霊に永久の安らぎと、御遺族の皆様には、御多幸を、心よりお祈りし、式辞といたします。

平成二十八年八月十五日
内閣総理大臣 安倍晋三